



2023年3月期第2四半期 決算説明会

2022年10月28日
株式会社トプコン
代表取締役社長 平野 聡



会社紹介
ビデオ

Topcon for Human Life

株式会社トプコン

2023 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会

2022 年 10 月 28 日

イベント概要

[企業名] 株式会社トプコン

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2023 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会

[決算期] 2023 年 3 月期

[日程] 2022 年 10 月 28 日

[時間] 15:30 -16:20

(合計 : 50 分、登壇 : 30 分、質疑応答 : 20 分)

[開催方式] オンライン開催 (ライブ配信)

[登壇者] 3 名

代表取締役社長 平野 聡

取締役 常務執行役員 財務本部長 秋山 治彦

執行役員 広報・IR 室長 平山 貴昭

2023年3月期第2四半期 決算説明会

I. 2023年3月期第2四半期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. まとめ

IV. 参考資料



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 2

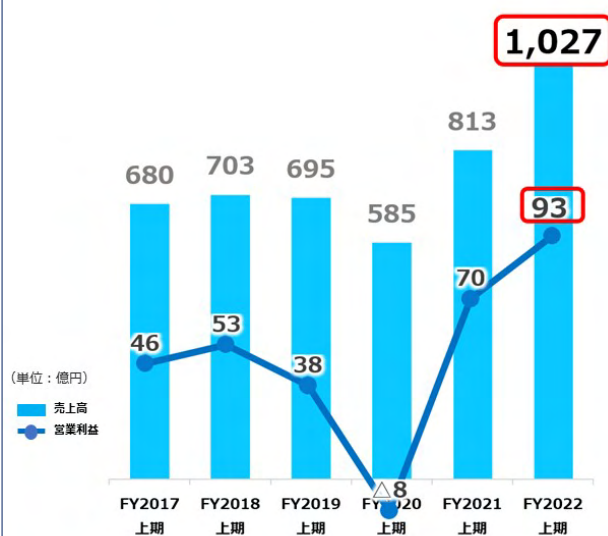
みなさま、こんにちは。2023年3月期第2四半期決算説明会を開始させていただきます。第2四半期の決算報告、通期見通し、まとめの順でご説明します。

I . 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-1. 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況

FY2022 上期決算概要



■ 大幅増収増益 売上高・利益 過去最高

- ICT自動化施工・IT農業等の成長事業が販売増に大きく寄与
- スクリーニングビジネス好調
- 部材不足、部材・物流費高騰影響は想定以上



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 4

上期決算概要です。売上高・利益ともに大幅な増収増益で、過去最高の結果となりました。売上高は1,027億円、営業利益は93億円でした。

主なポイントとして、ICT 自動化施工・IT 農業などの成長事業が売上に大きく貢献し、アイケア事業のスクリーニングビジネスも継続して好調でした。一方で、想定以上に部材不足や物流費高騰の影響を受けましたが、これらすべてを踏まえてこのような結果となりました。

FY2022 上期実績

■ 売上高・利益・配当 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	前年同期比%
売上高	81,251	102,715	21,464	+26%
売上総利益 (売上総利益率)	41,583 (51.2%)	53,515 (52.1%)	11,932	
販管費	34,602	44,179	9,576	
営業利益 (営業利益率)	6,980 (8.6%)	9,336 (9.1%)	2,355	+34%
営業外損益	△695	92	787	
経常利益	6,285	9,428	3,142	+50%
特別損益	495	△426	△921	
税引前利益	6,781	9,002	2,221	
四半期純利益	3,883	6,032	2,148	+55%
中間配当	10円	20円	+10円	
為替 換算レート (期中平均)	USD EUR	110.18円 130.97円	133.46円 138.79円	23.28円 7.82円



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 5

計数編です。売上高・利益についてはご説明したとおりで、経常利益は前年同期比 150 パーセントの 94 億 2,800 万円、純利益は前年同期比 155 パーセントの 60 億 3,200 万円です。中間配当は計画どおり、前年同期比 10 円増配の 20 円の予定です。

FY2022 上期事業別実績

■全事業で増収

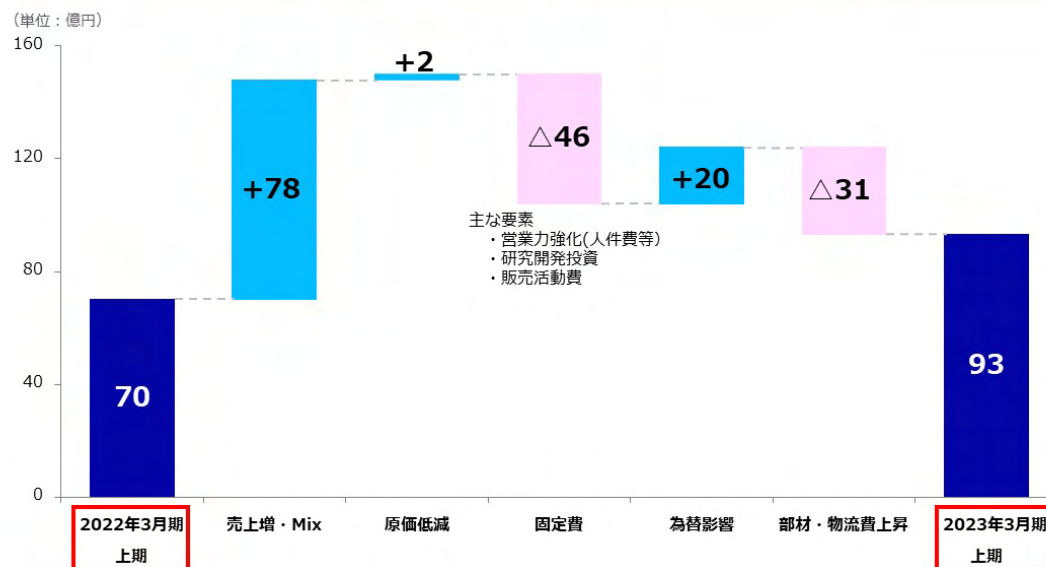
(単位：百万円)

		FY2021	FY2022		
		上期実績	上期実績	前年同期比	前年同期比%
売上高	ポジショニング	45,279	59,895	14,615	+32%
	スマートインフラ	18,973	20,773	1,800	+9%
	アイケア	25,252	31,492	6,239	+25%
	その他	600	588	△12	
	消去	△8,854	△10,033	△1,179	
	合計	81,251	102,715	21,464	+26%
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	5,442 (12.0%)	7,590 (12.7%)	2,148	+40%
	スマートインフラ	3,242 (17.1%)	2,652 (12.8%)	△589	△18%
	アイケア	515 (2.0%)	1,487 (4.7%)	972	+189%
	その他	△162	△204	△42	
	調整	△2,057	△2,190	△133	
	合計	6,980 (8.6%)	9,336 (9.1%)	2,355	+34%

6

事業別実績については、後ほど詳細をご説明します。

FY2022 上期増減益分析（営業利益ベース:前年同期比）



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 7

増減益分析です。前年同期の営業利益 70 億円に対して、93 億円で着地しました。

内訳としては、売上増による営業利益の増加で 78 億円のプラス、原価低減で 2 億円のプラスとなっています。また、人件費を含めた営業力強化、研究開発費への投資、販売活動費の増加などといった固定費が前年同期と比較し 46 億円増加しています。為替はプラスに影響し、20 億円のプラスとなっています。一方で、部材・物流費上昇によるマイナスが想定以上に大きく 31 億円となり、結果的に営業利益は 93 億円でした。

I . 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-1. 2023年3月期第2四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況



©2022 Topcon Corporation

Topcon for *Human Life* 8

次に、事業別の状況をご説明いたします。

事業別の状況

ポジショニング

■ 売上高・利益 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	%
売上高	45,279	59,895	14,615	+32%
営業利益 (営業利益率)	5,442 (12.0%)	7,590 (12.7%)	2,148	+40%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.18 円 EUR 130.97 円	133.46 円 138.79 円	23.28 円 7.82 円	

業績要因分析

全般

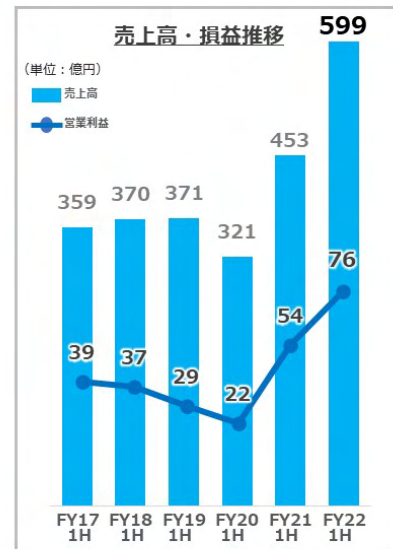
- 部材不足の影響も、北米中心に好調な需要を取込み大幅増収増益
- 部材・物流費高騰の影響顕在化

ICT自動化施工・IT農業

- アフターマーケット・OEM共に販売好調継続

測量機・レーザー機器

- 底堅い需要継続も、部材不足影響で販売鈍化



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 9

まずはポジショニング事業です。売上高は前年同期比 132 パーセントの 598 億 9,500 万円、営業利益は前年同期比 140 パーセントの 75 億 9,000 万円と、大幅な増収増益です。

全般的に、部材・物流費高騰の影響が顕在化したほか、部材不足により出荷できないという影響がありました。一方で、北米を中心に好調な需要があり、結果としては増収増益となりました。

当事業の基幹事業である ICT 自動化施工・IT 農業は、アフターマーケット・OEM とともに販売が好調でした。また、コンベンショナルな測量機・レーザー機器については、需要は非常に堅調ですが、部材不足の影響でなかなか出荷できなかったこともあり販売が鈍化しました。

事業別の状況

スマートインフラ

■ 売上高 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	%
売上高	18,973	20,773	1,800	+9%
営業利益 (営業利益率)	3,242 (17.1%)	2,652 (12.8%)	△589	△18%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.18 円 EUR 130.97 円	133.46 円 138.79 円	23.28 円 7.82 円	

業績要因分析

全般

- 国内向け販売好調、アジア・中東は販売回復継続
- 部材不足に伴う測量機生産減の影響継続

国内ICT自動化施工・IT農業

- 杭ナビショベル・農機オートステアリングシステムの販売好調

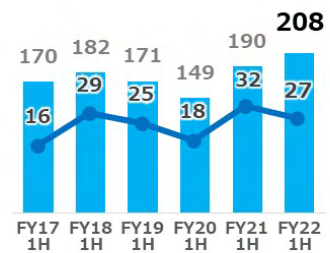
成長投資

- 建築DX、アジア市場開拓の先行投資は順調に進捗

売上高・損益推移

(単位：億円)

■ 売上高
● 営業利益



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 10

次にスマートインフラ事業です。売上高は前年同期比 109 パーセントの 207 億 7,300 万円で過去最高となり、営業利益は前年同期比 18 パーセント減の 26 億 5,200 万円です。営業利益については、5 月の 2021 年度決算説明会時からお話ししているように、新しい事業の創出としてビル建築市場のデジタルトランスフォーメーション、およびアジア市場開拓のための先行投資を行っている影響が出ています。

全般的には国内の販売が好調で、コロナ禍を脱したアジア・中東の販売が回復傾向にあります。部材不足については先ほどのポジショニング事業と同様です。また、基幹商品になりつつある中小型建機向けの ICT 自動化施工システム「杭ナビショベル」、および IT 農業の農機オートステアリングシステムの国内販売が非常に好調です。

事業別の状況

アイケア

■ 売上高 過去最高

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022		
	上期実績	上期実績	前年同期比	%
売上高	25,252	31,492	6,239	+25%
営業利益 (営業利益率)	515 (2.0%)	1,487 (4.7%)	972	+189%
為替 換算レート (期中平均)	USD 110.18 円	133.46 円	23.28 円	
	EUR 130.97 円	138.79 円	7.82 円	

業績要因分析

全般

- 部材不足による影響も、欧米向け好調な販売により大幅増収増益
- 中国はゼロコロナ政策影響で販売鈍化
- 部材・物流費高騰の影響顕在化

スクリーニングビジネス

- Maestro/NW400を中心に好調な販売継続

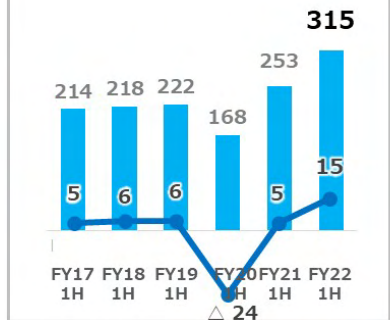
デジタル検眼システム

- 欧米大手眼鏡チェーン向け販売好調

売上高・損益推移

(単位：億円)

■ 売上高
● 営業利益



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 11

アイケア事業については、売上高は前年同期比 125 パーセントの 314 億 9,200 万円、営業利益は前年同期比 289 パーセントの 14 億 8,700 万円と大幅な増収増益で、過去最高の結果となっています。

部材不足の影響はありますが、欧米の好調な販売により増収増益となりました。中国に関しては、残念ながらゼロコロナ政策の影響が大きく、販売が鈍化しました。部材・物流費高騰の影響も大きく表れています。

注力しているスクリーニングビジネスは 3D-OCT の「Maestro」や眼底カメラの「TRC-NW400」などを中心に好調な販売を継続しています。一昨年から力を入れているデジタル検眼システムも、欧米を中心とした眼鏡チェーン店で販売が好調です。

Ⅱ. 2023年3月期 通期見通し

Ⅱ-1. 2023年3月期 通期見通し

Ⅱ-2. 事業別トピックス



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 12

通期の業績見通しについてご説明します。

FY2022 通期見通し

■ 上方修正 売上高 2,000億円

マクロ環境の見通し

- 世界的なインフレ高進と金融引締めによる景気後退リスク
- ロシア・ウクライナ戦争等の地政学リスクの高まり
- 部材不足及び価格高騰の影響継続
- 中国ゼロコロナ政策による影響の長期化

上記の通りマクロ環境の不透明感が一層高まる一方で、成長事業の堅確な需要および下期の為替前提の変更を鑑み、以下の通り業績見直しを見直す

新公表値

	旧公表値 (7/26)	新公表値 (10/28)	旧公表値比	前年度 (FY2021)	前年度比
売上高	1,900億円	2,000億円	+5%	1,764億円	+13%
営業利益	180億円	190億円	+6%	159億円	+19%
経常利益	170億円	180億円	+6%	148億円	+21%
純利益	120億円	125億円	+4%	107億円	+17%
配当	40円	42円	+2円	36円	+6円



下期為替前提：\$=130円/€=135円
© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 13

マクロ環境として4つの項目を記載していますが、これらはすべて悪影響を及ぼす懸念がある事象です。一方で、上期の好調な業績、現時点では当社事業はそれほど市況の悪い影響を受けていないこと、また下期の為替前提をドル130円、ユーロ135円に変更することを踏まえ、通期見通しを上方修正します。

売上高は2,000億円、営業利益は190億円、経常利益は180億円、純利益は125億円で、配当は前回公表値から2円増やし、前年度比6円増配の42円とします。

FY2022 通期見通し

(単位：百万円)

	FY2021		FY2022			
	上期 実績	通期 実績	上期 実績	通期 見通し	前年度比 (%)	2022年 7月26日 公表値
売上高	81,251	176,421	102,715	200,000	+13%	190,000
営業利益 (営業利益率)	6,980 (8.6%)	15,914 (9.0%)	9,336 (9.1%)	19,000 (9.5%)	+19%	18,000 (9.5%)
経常利益	6,285	14,820	9,428	18,000	+21%	17,000
純利益	3,883	10,699	6,032	12,500	+17%	12,000
R O E		14.0%		14%		14%
配当	10円	36円	20円	42円	+6円	40円
為替換算レート (期中平均)	U S D E U R	110.18円 130.97円	112.86円 131.01円	133.46円 138.79円	130.00円 135.00円 (下期前提 レート)	120円 130円



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 14

こちらのスライドのご説明は割愛します。

FY2022 通期見通し（事業別）

（単位：百万円）

		FY2021		FY2022			
		上期 実績	通期 実績	上期 実績	通期 見通し	前年度比 (%)	2022年 7月26日 公表値
売上高	ポジショニング	45,279	96,692	59,895	113,000	+17%	106,000
	スマートインフラ	18,973	39,040	20,773	43,000	+10%	42,000
	アイケア	25,252	57,352	31,492	65,000	+13%	62,000
	その他	600	1,184	588	1,000		1,000
	消去	△8,854	△17,848	△10,033	△22,000		△21,000
	合計	81,251	176,421	102,715	200,000	+13%	190,000
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	5,442 (12.0%)	11,548 (11.9%)	7,590 (12.7%)	13,500 (11.9%)	+17%	13,000 (12.3%)
	スマートインフラ	3,242 (17.1%)	5,821 (14.9%)	2,652 (12.8%)	5,500 (12.8%)	△6%	5,000 (11.9%)
	アイケア	515 (2.0%)	3,203 (5.6%)	1,487 (4.7%)	5,000 (7.7%)	+56%	4,500 (7.3%)
	その他	△162	△365	△204	△400		△300
	調整	△2,057	△4,293	△2,190	△4,600		△4,200
	合計	6,980 (8.6%)	15,914 (9.0%)	9,336 (9.1%)	19,000 (9.5%)	+19%	18,000 (9.5%)



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 15

同じく、説明は割愛します。

Ⅱ. 2023年3月期 通期見通し

Ⅱ-1. 2023年3月期 通期見通し

Ⅱ-2. 事業別トピックス



©2022 Topcon Corporation

Topcon for *Human Life* 16

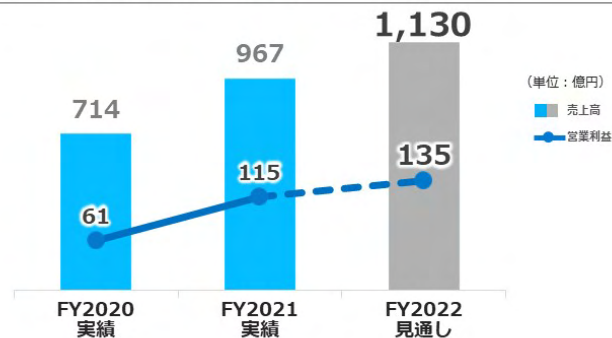
事業別のトピックスについてご説明します。

事業環境

- 金融引締めによる米国住宅建設減速の一方で、インフラ関連工事は増加傾向
- 欧米における建設／農業分野での人材不足による省力化ニーズの高まり

注力事項

- 米国インフラ投資の積極的な取込み
- 世界最大の建機展「BAUMA2022」再開



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 17

まずポジショニング事業については、金融引締めにより米国住宅建設市場が減速している一方、インフラ関連工事は増加傾向にあります。また、欧米における建設・農業分野での人材不足により、潜在的な省力化ニーズが非常に高まってきています。

これらの事業環境を踏まえ、通期で売上高は1,130億円、営業利益は135億円の増収増益を計画します。注力事項については次のスライドでご説明します。

米国インフラ投資の積極的な取込み

ポジショニング

■増加するインフラ関連工事需要を捉える

米国インフラ投資雇用法 (2021年11月成立)

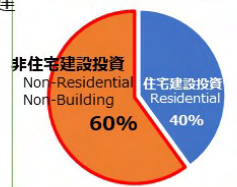
- ✓ 予算規模：総額1.2兆ドル超
- ✓ 8年間にわたり公共工事の増加に期待

主な投資分野

- ・道路・橋梁の修復再建
- ・鉄道の近代化
- ・公共交通の拡充
- ・空港・港湾整備

出： <https://www.congress.gov/bills/117/house/2684/news>

米国建設投資の内訳



米国建設プロジェクト推移



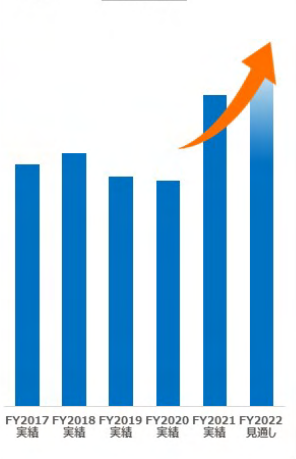
各プロジェクト事例



TOPCON

© 2022 Topcon Corporation

ICT自動化施工 売上推移



Topcon for Human Life 18

注力事項の1つ目として、米国インフラ投資の積極的な取込みを行います。米国で2021年11月に成立したインフラ投資雇用法の予算規模は総額1.2兆ドル超で、8年間にわたる公共工事の増加を期待できると見えています。道路・鉄道・公共交通・空港などへの投資は、当社の事業と直結しています。スライド左側の円グラフは米国建設投資の内訳を示しており、オレンジ色の「非住宅建設投資」がインフラ投資に該当します。

スライド中央の折れ線グラフはDodge Indexからのデータで、金融引締めの影響で住宅着工件数は確かに減少傾向にあります。一方で、米国のインフラ投資件数は右肩上がりで、こちらの需要が当社の堅調な販売を支えていると言えるかと思います。

スライド右側の棒グラフは当社ICT自動化施工システムの売上推移です。2021年度から2022年度にかけて大きな成長を期待しています。

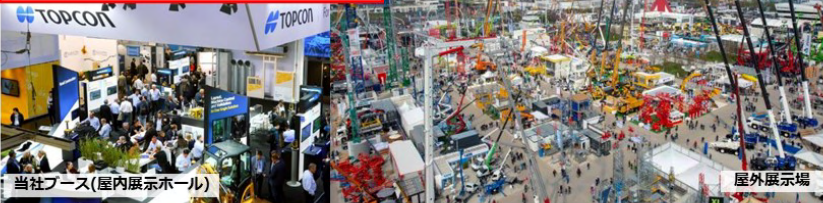
世界最大の建機展「BAUMA2022」再開

ポジショニング

■ コロナ禍で延期となっていた3年に一度の世界最大の建機展開催

欧州建機展「BAUMA」

開催地 : ドイツ、ミュンヘン
日程 : 2022年10月24日～30日
参加者(見込) : 60万人以上(前回実績62万人)
出展社数 : 58ヶ国から3,000社以上



当社ブース(屋内展示ホール)

屋外展示場

成長期待分野で当社独自ソリューションを展示

再舗装工場化ソリューション



当社エコシステムで補修サイクル構築

中小型ICT建機用MC Mobile



ICT建機の裾野を拡大

建築DX



DXで新規マーケットを創出

- ✓ 多数の来場者で会場は活況
- ✓ 大量受注、引き合いは前を上回る



世界的なインフレ局面においても
建設市場の勢いを確信

Topcon for Human Life 19

次は建機展の話です。ドイツのミュンヘンで世界最大規模の建機展「BAUMA2022」が再開されました。こちらは3年に1回、例年4月に開催されますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期となり、2022年10月24日から30日の日程で開催となりました。展示会および建設市場の活況ぶりをお伝えしたいと思います。

前回の参加者数は62万人で、今回も60万人以上は期待できると言われています。ラスベガスで行われる電子機器の見本市である「CES」(コンシューマー・エレクトロニクス・ショー)の参加者数がだいたい15万人から17万人程度ですので、その4倍近い規模の展示会です。

このように建機市場は大変大きく、現在の市況も良く営業活動をスムーズに行える状況にあることがお分かりいただけると思います。

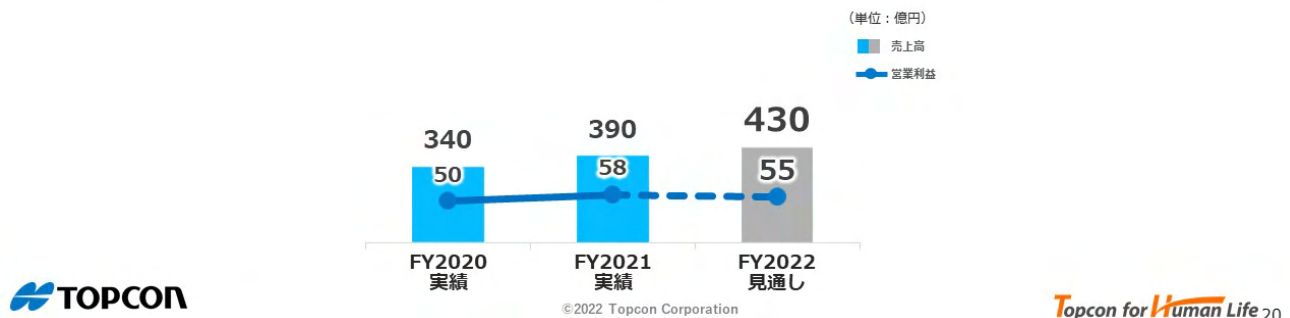
9年前の「BAUMA」では、ICT施工システムを装着した建機メーカーは全体の10パーセント程度でしたが、今年の展示会ではほぼ装着されており、展示会ベースではかなり普及しています。

事業環境

- 国内建設・農業分野の堅調な需要継続、担い手不足による自動化ニーズの高まり
- アジア：コロナ禍からの復興需要が本格化

注力事項

- 『杭ナビショベル』で国内ICT自動化施工の普及加速
- 国内IT農業：中小型IT農機市場の開拓を牽引

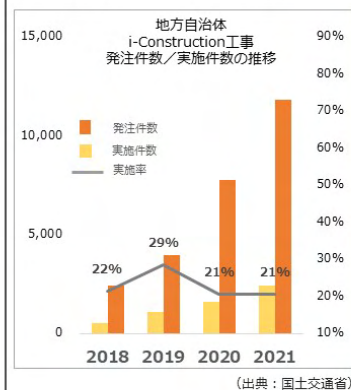


スマートインフラ事業です。国内建設・農業分野の堅調な需要があるほか、担い手不足による自動化ニーズの高まりやアジアでのコロナ禍からの復興需要の本格化により、売上高は増収の430億円、営業利益は横ばいを計画しています。先ほどお話ししたとおり、先行投資の影響で利益が減少する見通しですが、決して粗利率が下がっているわけではありません。

■ 地方で広まるi-Constructionへの取組みを後押し

i-Construction実施状況と課題

- ✓ i-Construction開始後6年で、地方自治体発注の小規模工事でも発注件数が急増
- ✓ 但し、実施率の伸び悩みが課題



※ i-Constructionは、国土交通省国土技術政策総合研究所の登録商標です。

小規模現場へのICT建機普及の取組み

■ ICT建機が普及しづらい要因

- ✓ 大規模現場用 (大型建機向け) がメイン
- ✓ セットアップの専門知識が必要
- ✓ GNSS (GPS) の専門知識が必要

■ 杭ナビショベルの投入！

- 導入のハードルを下げる
杭ナビショベルの特徴
- ✓ 小規模現場に適した (小型建機向け) 廉価版システム
 - ✓ セットアップが容易
 - ✓ 現場に広く普及している「杭ナビ」をセンサーに活用
GNSS (GPS) の専門知識が不要



「杭ナビショベル」販売推移 (台数)



Topcon for Human Life 21

ICT 自動化施工の普及加速についてご説明します。国内では国土交通省が 2016 年に「i-Construction」を立ち上げました。スライド左側のグラフのとおり、濃いオレンジで示した自動化施工の発注件数は順調に伸びており大変良い傾向ですが、黄色で示した実施件数は伸びてはいるものの、発注件数に対する割合は伸び悩んでいます。

なぜかと言いますと、ICT 建機は中小規模の工事ではなかなか普及しづらいためです。その理由は、従来の ICT 建機が主に大規模工事用に作られていたということ、セットアップするために専門知識がいるということ、また、GNSS (GPS) の専門知識が必要であるためです。決してこれらの習得は難しいものではありませんが、中小規模の現場では、ここの専門知識がボトルネックになってきます。

当社はそこを解消するために、「杭ナビショベル」を 2020 年度から投入しています。小規模現場に適した非常に簡単な廉価版システムです。セットアップが容易であり、GPS の専門知識を必要としません。

当製品の導入により実施件数を上げていき、ICT 建機の普及を加速させたいというのが狙いとなります。スライド右側のグラフのとおり実際に数字で表れていますが、2021 年度、2022 年度とかなりの勢いで伸びています。非常に期待できる戦略的商品です。

■ 簡易型オートステアリングシステム市場投入で大幅販売伸長

当社IT農業システムラインナップ

大型トラクター向け
オートステアリングシステム

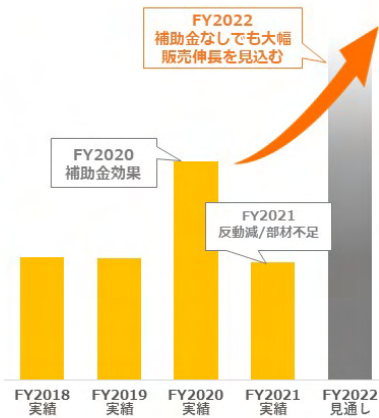
<特徴>

- ✓大型トラクター向け
- ✓大規模農場での利用
- ✓フル機能搭載

中小型トラクター向け
オートステアリングシステム
2021年11月発売

<特徴>

- ✓中小型トラクター向け
廉価版システム
- ✓中小規模農場での利用
- ✓機能限定
(オートステアリングのみ)

ここを
ターゲットトラクター
市場規模イメージ (台数)従来ターゲット市場
大型農機
(主に北海道)未開拓市場
中小型農機
(北海道以外)当社オートステアリングシステム
販売推移 (台数)

次に国内のIT農業についてです。IT農業が非常に活況であるということ、2019年度から2020年度にかけてお示ししてきました。2021年度は、補助金効果の反動や部材不足により、落ち込んでいますが、今年度は大きく伸びる計画です。

理由としては、補助金がなくとも普及できるような状況になってきたためです。IT農業は、元々大規模農場で活用されていました。例えば北海道の小麦を生産するファームと言われる、大きな農家が利用する大型のトラクターに搭載され、限定されたマーケットで普及してきました。

それに対して、本州や九州などの中小型のトラクターや田植機等にも搭載できるような小型版、廉価版のシステムを投入し、北海道から南へと拡販してきました。2021年11月に発売し、非常に好評で2022年度は足元かなり大きく伸長しています。

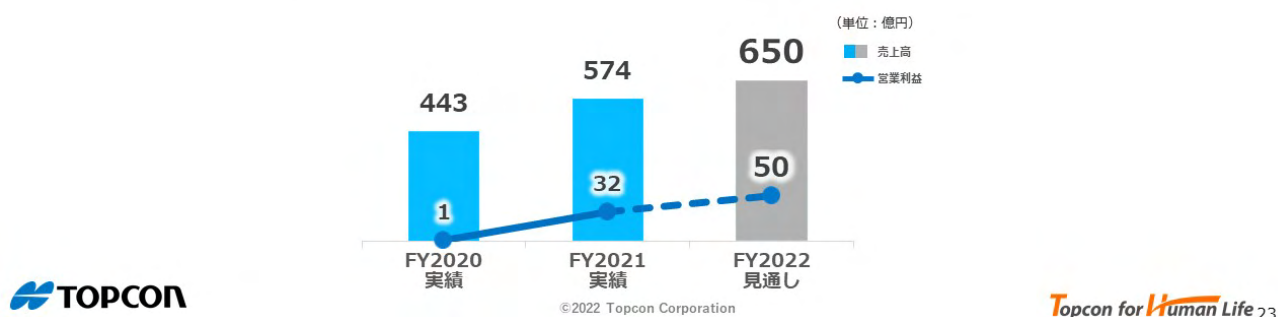
先ほどの「杭ナビショベル」も、このIT農業の日本の成功事例も、全世界へ展開できると考えています。特にアジア市場においては、「杭ナビショベル」や廉価版のIT農業システムが非常に効果的と見て傾注しているところです。

事業環境

- 欧米大手眼鏡チェーン店の堅調な設備投資が継続、特にスクリーニングに注力
- 世界的な高齢化や糖尿病増加による慢性眼疾患の継続的な増加

注力事項

- 戦略的新製品投入でスクリーニングビジネスを推進
- 世界最大の米国眼科学会AAO2022開催



最後にアイケア事業についてです。事業環境については、欧米大手眼鏡チェーン店の堅調な設備投資が継続しており、特にスクリーニング事業に注力しています。世界的な高齢化、糖尿病増加により慢性眼疾患は継続的に増加しており、この状況は当面改善することはないでしょう。

そのような環境で、売上高は650億円、営業利益50億円と、大幅な増収増益を計画しています。注力事項については次のスライドよりご説明します。

■ スクリーニングに適した機能を強化したフルオート眼底カメラ NW500発売



瞳孔が小さくても撮影可能！ ※2

撮影可能最小瞳孔径

当社従来機 3.3mm

新製品 2.0mm ※2

瞳孔径イメージ図

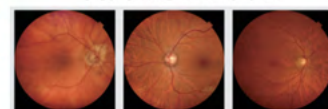
3.3mm

2.0mm

撮り直しが少なく、高画質眼底画像を撮影可能！

優れた画質、フレアや影の低減効果により、
撮影の成功率向上

高画質な眼底画像



白内障
(瞳孔径:2.0mm)

緑内障
(瞳孔径:3.0mm)

糖尿病網膜症
(瞳孔径:3.0mm) ※3

眼鏡店やドラッグストア等の様々な場所で撮影可能

部屋の明暗設定環境に左右されにくく、明るい部屋でも撮影可能！



©2022 Topcon Corporation

※1 販売名「無接触眼底カメラ NW500」 認証番号「304AABZX0008000」
※2 最小瞳孔径2.0mmの撮影が可能であることを、型式検査で検証済
※3 患者例 Michael H. Chen, MD
※4 日本においては医師不在の眼鏡店・ドラッグストア等は対象外
※5 623luxで検証済
※6 Pre-testレーム等の623lux以下の環境下で撮影が可能

Topcon for Human Life 24

重要なスクリーニング事業についてです。スクリーニングに適した機能を持つフルオート眼底カメラ「NW500」を発売しました。

人間の習性として、明るい場所では瞳孔が小さくなります。

当社の従来機「NW400」では、撮影できる最小瞳孔径が 3.3 ミリメートル程度です。瞳孔がこれより小さいと、明るい場所では撮影ができません。

これ以上小さくなった瞳孔を当社の従来機「NW400」で測る場合、暗いところ、暗室に行けば測れます。しかし、スクリーニングの潜在需要を捉えるためには、暗室ではなく、例えば眼鏡店やドラッグストアなどの明るいところでも撮影できるということが非常に重要です。

そこを狙って、この「NW500」は、撮影可能な最小瞳孔径を 2 ミリメートルまで小さくしました。最小 2 ミリメートルでも撮影可能ということは、明るい場所での撮影や被検者の年齢や状況を問わず幅広く撮影対象を網羅できるということになります。スクリーニング事業においては、どこでも誰でも撮れるというのが非常に重要なスペックですので、この点を狙っていきたいと考えています。

世界最大の米国眼科学会 AAO 2022開催

アイケア

■コロナ禍後、3年振りの本格的な実地開催

米国眼科学会(AAO)

開催地：米国シカゴ
日程：2022年9月30日～10月3日



会場の様子



学会の様子



非常に活況な当社ブース



AMERICAN ACADEMY™
OF OPHTHALMOLOGY

参加者大幅増加
15,000人
(昨年9,000人)

対前年受注額
130%



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 25

先ほどポジショニング事業で「BAUMA」というドイツの展示会をご紹介しましたが、こちらの「米国眼科学会（AAO）」は眼科の非常に大きな展示会です。世界で一番大きな展示会の1つで、3年ぶりに本格的に実地開催されました。

直近2年間はコロナ禍のため、オンラインで規模が小さかったのですが、今年は本格的に開催されました。活況さをお示しする実際の写真を複数掲載しています。

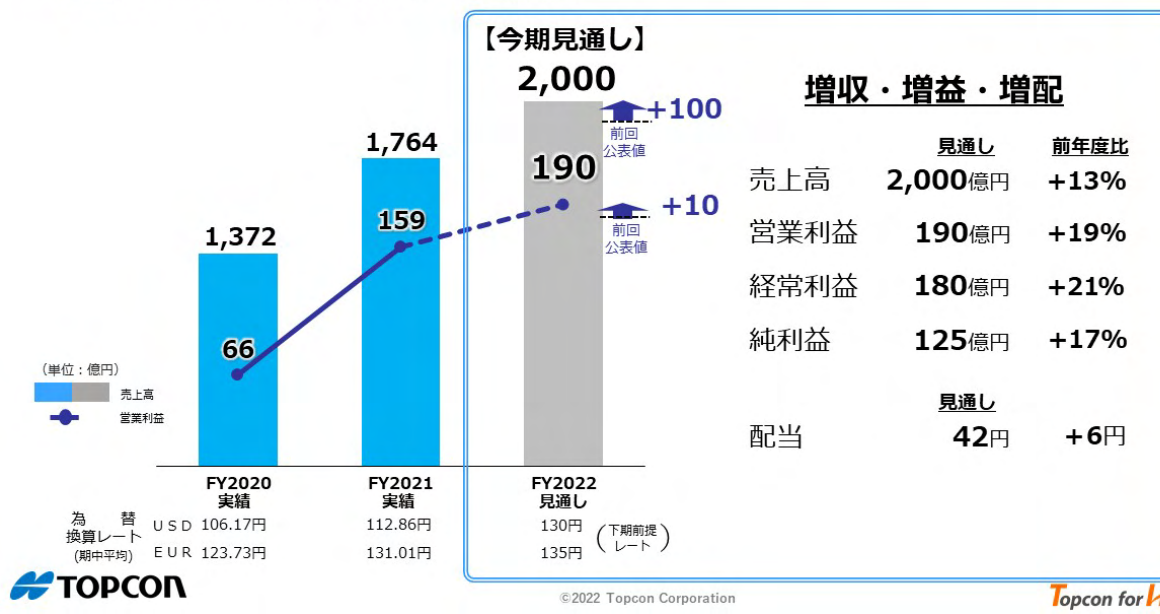
参加者は1万5,000人と昨年に比べて倍近くとなっており、当社の受注も大きく伸びています。

Ⅲ. ま と め

最後にまとめです。

まとめ

■ 上方修正 売上高・利益 過去最高



業績見通しを上方修正し、売上高 2,000 億円、営業利益 190 億円、経常利益 180 億円、純利益 125 億円、配当については 6 円増配の 42 円を計画します。

質疑応答サマリー

<全社共通事項>

Q. 粗利率の水準について、どのように評価しているのか？

A. 粗利率の変動要因としては、部材価格の上昇、値上げ、為替があるが、最初の二つの影響が相殺し、為替の分だけ改善したというイメージ。

Q. 部材不足について、上期も厳しかったと言っていたが上方修正している。同じような形に下期になる可能性が高いと考えて良いのか、それとも下期は更に厳しくなると見ているのか？

A. 状況は変わらない。今後想定以上に厳しいことが出て来るかもしれないが、上振れできるように設計変更などの努力を継続していく。

Q. 為替の上期売上への影響額は？

A. 上期実績でいうとおおよその数字で約百億円。

Q. 通期の新しい増減益分析の数値について教えて欲しい。

A. 売上増・Mix が 70-80 億円のプラス、固定費が 50-60 億円のマイナス、為替と原価低減が合わせて 40 億円程度、部材物流費上昇が 30-40 億円のマイナスと見ている。

Q. 下期のガイダンスの数値を計算すると、ポジショニング・カンパニーが前年同期比で減益となっている。当事業を最も保守的に見ていると考えて良いのか？

A. そのように見ていただいて構わない。

<ポジショニング・カンパニー>

Q. Q2 だけで見ると今までにない高い水準の売上だったが、下期について、マクロの影響などを含めどう見れば良いか？

A. 受注状況から見ると悪くはなく、住宅絡みは弱いがインフラ関連が堅調で、当面は悪くはならないように見える。一方で、世界的なインフレや金融引締め、地政学リスク、部材不足、中国のゼロコロナ政策の影響などがあり、不透明感が増々高まっている。その為、下期の予

想数値はかなり抑えた数字となっている。

Q. 為替と値上げの影響が無かった場合の売上の伸びはどの程度だったのか？

A. それらの影響を除いても、二桁の増収だった。

Q. 不透明要因が高まっている状況下では、キャンセルのリスクも考えた方が良いのか？

A. 通常はあまりキャンセルはないが、ここまで多額の受注残を抱えるということは過去に無く、キャンセルのリスクを否定はできない。

Q. 今後の3年を見て、建機や農機の自動化に関して、技術優位性はどうなっていくのか？ 大手の建機メーカーや農機メーカーによる内製化のリスクはないか？

A. まだ建機や農機のロボット化は黎明期であり、建機メーカーや農機メーカーの内製化の動きがあったとしても当社のビジネスはまだ成長できる。長い目で見た場合には、大手建機メーカーは何れは内製化するだろうと思う。しかし、そのロボット化した建機を動かすには測定のデータが必要。施工後の検査も含め、測定の技術が必要となるので、彼らが市場を全部取ることはできない。農業については、求められる精度が相対的に低いので、内製化のハードルはより低くなる。しかし、スマート農業ということを考えると、育成状況をセンシングする等、当社が得意な計測技術が様々な場面で必要となる。当社は彼らと協業する形になっていくと考えている。

<アイケア事業>

Q. 景気後退となった場合、眼鏡チェーン店による設備投資の減速リスクはあるか？

A. 現状は好調で、景気減速を感じさせていない。

Q. NW500 についての説明があったが、現行モデルの NW 4 0 0 が発売から 8 年経過している。更新需要が期待できるのか？

A. 期待している。NW500 は製品力が向上しているので、それ以外にも期待している。

IV. 参考資料

四半期別業績推移

■ 全社



■ ポジショニング・カンパニー



■ スマートインフラ・ビジネス



■ アイケア・ビジネス



半期別業績推移

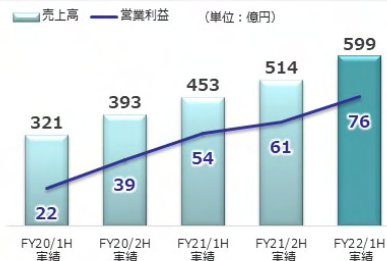
■ 全社



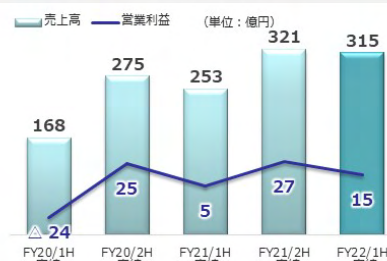
■ スマートインフラ・ビジネス



■ ポジショニング・カンパニー



■ アイケア・ビジネス



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 31

年間別業績推移・見通し

■ 全社



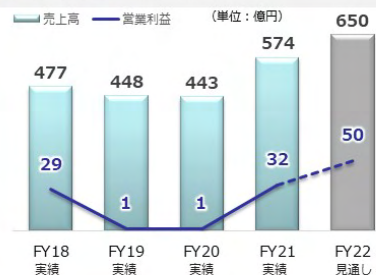
■ スマートインフラ・ビジネス



■ ポジショニング・カンパニー



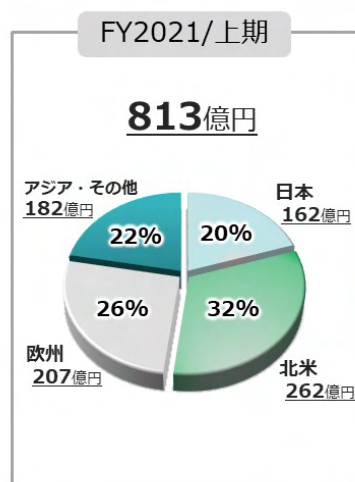
■ アイケア・ビジネス



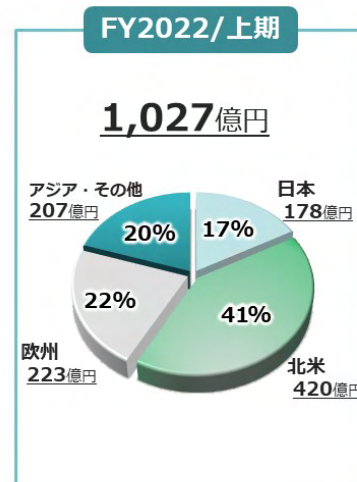
©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 32

地域別売上高



前年同期比
+26%

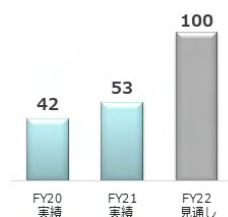


設備投資および研究開発費 / 為替感応度

■ 投資額・費用見通し

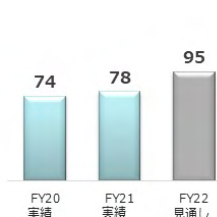
設備投資額

(単位：億円)



減価償却費*

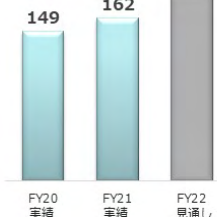
(単位：億円)



*のれん償却費を除く

研究開発費

(単位：億円)



■ 為替感応度 (1円の変動による影響額)

USD：営業利益 1.5～2億円

EUR：営業利益 0.7～1億円

■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/invest/library/integration/>

Topcon Report 2022 (統合報告書) 発行

■ 非財務情報コンテンツを更に充実化させた統合報告書を8月に発行



■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/invest/library/integration/>
価値創造プロセス



コンテンツ

- トップメッセージ
- トプコンの価値創造
- 事業別戦略

- サステナビリティ
- ガバナンス
- 財務ハイライト



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 35

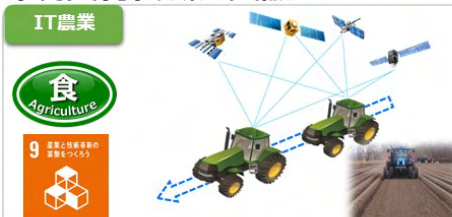
SDGsへの取り組み : CO2排出量削減への貢献

■ 建機・農機の自動化システムそのものが環境負荷低減に貢献



建機の自動化により
稼働時間を約3割※1低減

当社製品による
CO2排出削減量
(当社推定) 全世界
60万トン/年※2



農機の自動操舵システムにより
稼働時間を約2割※3低減

当社製品による
CO2排出削減量
(当社推定) 全世界
50万トン/年※4

ベンダーニュートラルの強みにより
既存の各社建機・農機を後付けで自動化

自動化の普及拡大で
更なるCO2削減が期待

※1: 出典: 国土交通省「Construction推進コンソーシアム」
「i-Constructionの進捗状況」(2019)
https://www.mlit.go.jp/tec/i-construction/pdf/03_5_kikaku_siryo_000.pdf

※2: 算定根拠
建機1台あたりの年間CO2排出量推定値に、ICT施工の活用による作業時間削減率を乗じた建機1台あたりのCO2排出削減量を算出。ICT自動化施工機種の全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算

※3: Constructionは、国土交通省国土技術政策総合研究所の登録商標です。

※3: 出典: AEM「The Environmental Benefits of Precision Agriculture in the United States」(2020)
https://newroom.aem.org/assets/977839/environmentalbenefitsprecisionagriculture_2020.pdf

※4: 算定根拠
農業用トラクター1台あたりの年間CO2排出量推定値に、オートステアリングシステムの活用による燃料消費率削減率を乗じた農機1台あたりのCO2排出削減量を算出。オートステアリングシステムによる自動操舵トラクターの全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 30

- WIN ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/10361/>
- FTSE ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/9527/>
- 日経 SDGs ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/news/2573/>

非財務情報について

■ サステナビリティ関連の外部評価

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、業種毎に同スコアの高い企業を選別するインデックスへ採用



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/10361/>



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスへ採用



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/9527/>

NIKKEI
SDGs
経営調査 2021 ★★☆☆

第3回日経SDGs経営調査

国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」への取り組みを格付けする調査において2年連続3つ星半を獲得



■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/news/2573/>



© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 31

非財務情報について

■ コーポレートホームページ上の当社が取り組む社会課題、SDGs等を説明したサステナビリティページ

TOPCONの取り組み

サステナビリティ
Topcon for Human Life
「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します

トプコンとSDGs
TOPCON & SDGs

SDGsへの取り組み → 国連グローバルコンパクト →

TOPCON

■ ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/>

© 2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 32

- ホームページ : <https://www.topcon.co.jp/sustainability/>

■ ニュースリリース : <https://www.topcon.co.jp/news/10786/>

日経広告賞 受賞

■「尖ったDXで、世界を丸く。」が第71回 日経広告賞

THE 71st 2022
NIKKEI ADVERTISING AWARDS
日経広告賞

日経メディア・ストラテジー特別賞 受賞！

独創性や新規性、広告展開の工夫などを基準に各審査委員会で選考された60点が受賞



日経電子版広告記事はトプコン
ホームページでご覧いただけます

2022年3月29日より、創立記念日の9月1日まで計6回 日本経済新聞に広告を掲載、日経電子版ともタイアップし当社をPR



*日本経済新聞2022/3/29, 6/22, 7/12, 7/27, 8/16, 9/1(広告掲載)+電子版(①歴史編、②事業編、③社長メッセージ編)タイアップ



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 39



©2022 Topcon Corporation

Topcon for Human Life 33

Topcon for *Human Life*



 TOPCON